

## 令和2年度学校評価 教職員アンケート集計結果

[内部評価 対象:教職員]

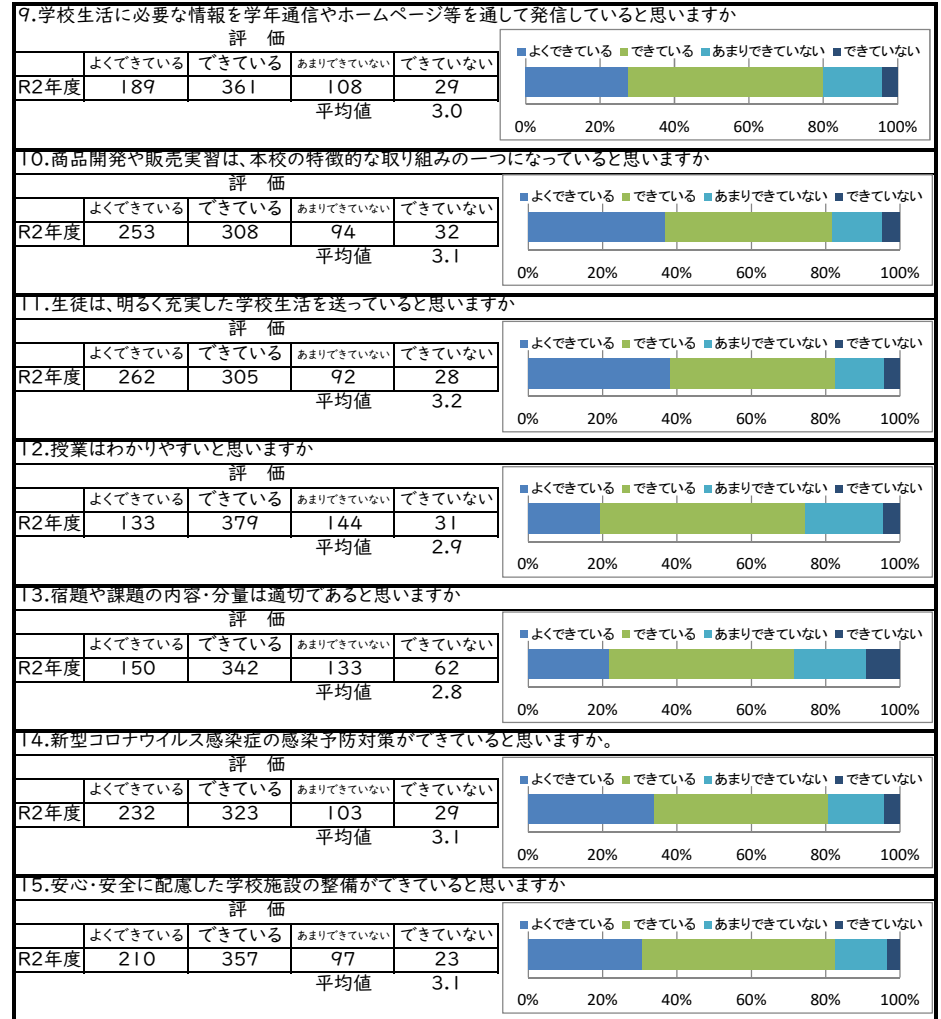
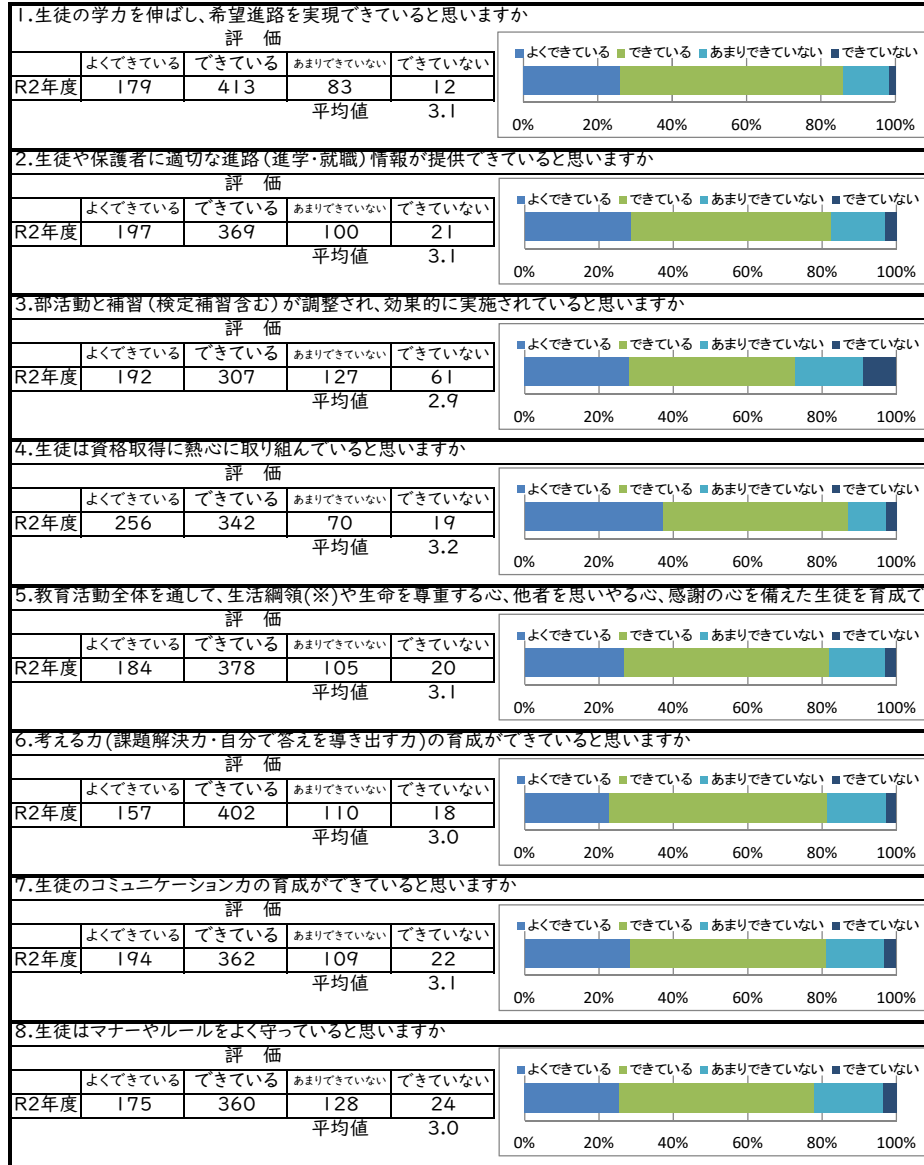
[47名]

No	質問内容	<input type="checkbox"/> よくできている <input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない	平均値
1	生徒の学力を伸ばし、希望進路を実現できていると思いますか。	8 37 20 35	3.1
2	生徒や保護者に適切な進路(進学・就職)情報が提供できていると思いますか。	7 31 9 53	3.0
3	部活動と補習(検定補習含む)が調整され、効果的に実施されていると思いますか。	4 22 18 56	2.6
4	生徒は資格取得に熱心に取り組んでいると思いますか。	6 28 13 53	2.9
5	教育活動全体を通して、生活綱領や生命を尊重する心、他者を思いやる心、感謝の心を備えた生徒を育成できていると思いますか。	3 33 10 54	2.8
6	考える力(課題解決力・自分で答えを導き出す力)の育成ができていると思いますか。	4 30 12 54	2.8
7	コミュニケーション力の育成ができていると思いますか。	5 24 16 55	2.7
8	本校の生徒はマナーやルールをよく守っていると思いますか。	4 28 13 55	2.7
9	学校生活に必要な情報を学年通信やホームページ等を通して発信していると思いますか。	6 35 6 53	3.0
10	商品開発や販売実習は、本校の特徴的な取り組みの一つになっていると思いますか。	8 29 9 54	2.9
11	明るく充実した学校生活を送っていると思いますか。	3 36 8 53	2.9
12	保護者や卒業生、地域、地元企業等と連携を図りながら、生徒が社会を感じることができる機会が十分設定されていると思いますか。	7 31 9 53	3.0
13	保護者との緊急連絡体制が確立されていると思いますか。	5 32 9 54	2.9
14	生徒のキャリア形成を支援するためのキャリア教育推進体制が構築されていると思いますか。	6 22 11 59	2.7
15	教員の教科指導力を向上させる体制が構築できていると思いますか。	3 16 23 58	2.5
16	新型コロナウイルス感染症の感染予防対策ができていると思いますか。	17 29 1 53	3.3
17	安心・安全に配慮した学校施設の整備ができていると思いますか。	8 30 9 53	3.0
18	あなたは、生徒の学力を伸ばし、進路実現に向けた指導ができていますか。	7 31 9 53	3.0
19	あなたは、進路情報を十分に理解し、生徒の進路指導に当たることができていますか。	6 28 13 53	2.9
20	あなたは、授業見学、公開授業の実施、生徒からの授業評価(アンケート等)などを通して、自身の授業力向上に努めていますか。	3 26 17 54	2.7
21	あなたは、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を行なっていますか。	6 33 8 53	3.0
22	あなたは、生徒の考える力を引き出すことを意識した授業を行なっていますか。	7 33 7 53	3.0
23	あなたは、コミュニケーション能力の向上を図ることを意識した授業を行なっていますか。	7 34 6 53	3.0
24	あなたは、課題提出ができていない生徒などに対する指導を十分に行っていますか。	10 32 5 53	3.1
25	あなたは、部活動に熱心に関わっていますか。	15 18 10 57	2.9
26	あなたは、生徒指導力向上のための取組を行なうことができていますか。	4 33 10 53	2.9
27	あなたは、生活綱領(※)にある目指すべき生徒像を意識した教育を行なうことができていますか。	3 35 9 53	2.9
28	あなたは、生徒との挨拶を積極的に交わしていますか。	18 27 20 35	3.3
29	あなたは、個人情報の管理・漏洩には十分に気をつけていますか。	17 29 1 53	3.3
30	あなたは、ワークライフバランスを意識した生活ができていますか。	8 24 11 57	2.8

平均値は「よくできている」を4点、「できている」を3点、「あまりできていない」を2点、「できていない」を1点とした平均の値となっています。

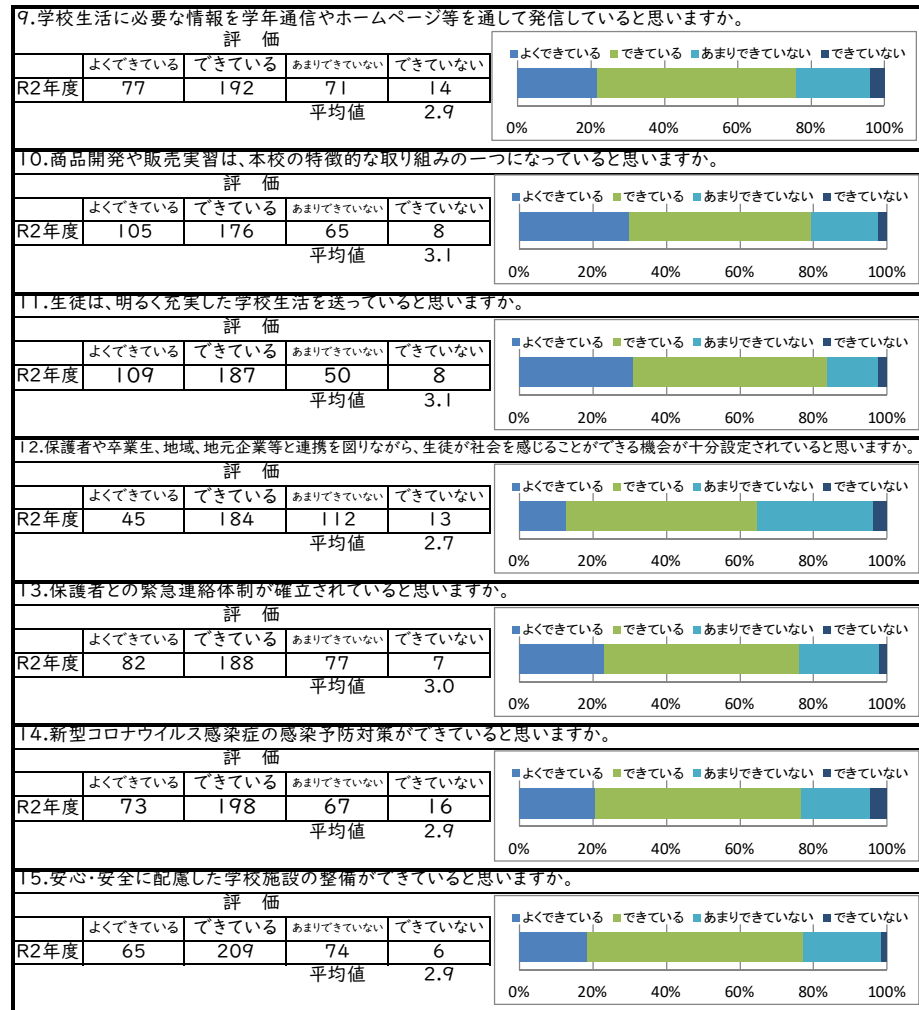
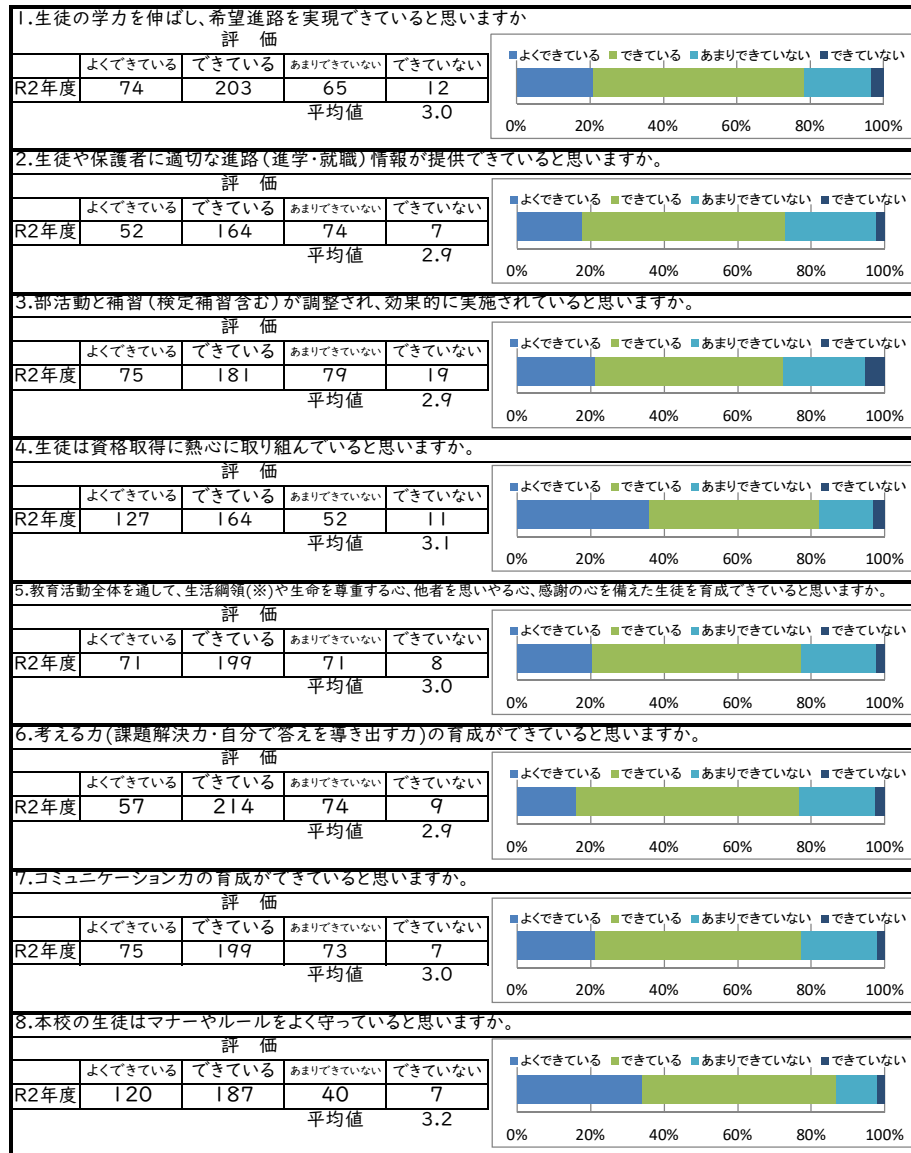
※ 生活綱領 ・「自分で考え自分で行う人となろう」 ・「創意工夫に生きる人となろう」 ・「共に喜び生きる人となろう」

令和2年度 学校評価 生徒アンケート集計結果（生徒687名回答）



平均値は「よくできている」を4点、「できている」を3点、「あまりできていない」を2点、「できていない」を1点とした平均の値となっています。  
 ※生活綱領「自分で考え自分で行う人となろう」「創意工夫に生きる人となろう」「共に喜び生きる人となろう」

令和2年度 学校評価 生徒アンケート集計結果（保護者354名回答）



平均値は「よくできている」を4点、「できている」を3点、「あまりできていない」を2点、「できていない」を1点とした平均の値となっています。  
 ※生活綱領「自分で考え自分で行う人となろう」「創意工夫に生きる人となろう」「共に喜び生きる人となろう」

# 令和2年度 学校評価報告

[内部評価] 対象:各専門部・学年

A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった

	重点目標	成果	評価	課題	改善策等
総務	・各部・各学年・各科との連携を密にし、学校前提の円滑な運営に努める	・4月以降、新型コロナウイルス関連で臨時休校や各行事の中止、規模縮小での実施を余儀なくされたが、校務運営委員会などを通じて、スムーズな運営を図った。	B	・年間行事予定の急な行事変更が多く見られた。	・年間行事計画の計画段階で、各種行事について感染症防止策を取りつつ実施できる計画をたてる。また、行事の精選を図る。
	・広報活動の工夫と充実を図り、本校の特色(魅力)や情報を学校内外へ発信する。	・学校紹介や部活動紹介の動画作成や学校ホームページの日々更新、学校案内の一部改訂など外部への情報発信回数を増やすことで、本校(商業高校)の特徴や魅力を伝えることができた。 ・ホームページの閲覧回数も1年間で77000件を超え大幅に増加した。 ・オープンハイスクールの実施が11月の1度だけであったが、400名近い中学生が参加した。	A	・オープンハイスクールの申込時期や、中学3年生の進路選択の情報提供として、学校案内パンフレットなどの広報資料を早い段階で作成・配布する必要がある。 ・ホームページに関しても、姫路商業の授業や部活動、取り組みなど学校の特色を幅広く情報を発信することで学校への理解を深めることにつながる。	・学校ホームページでは、各部署・学年との連携を図り、情報提供や情報発信など学校全体で取り組む必要がある。
教務	・自ら学び、自ら考える力を育成するため、各教科内研修(公開授業)を推進し、授業改善を勧める。研究授業を行い授業改善・自己研鑽に努める。 ・能力・適性・興味・関心、進路に応じた教育課程の研究に努める。	公開・研究授業を行い、教科内研修を推進した。	B	・すべての教科で公開・研究授業を実施できなかった。ベテランの先生方に公開授業をしていただき若手教員の刺激になったが、それに続かなかった。	・年度や学期など授業評価の実施時期を示し、各教科において評価項目の策定を依頼し教務主導で導入したい。
	・基礎・基本の定着を図るため、少人数指導・複数担当授業・習熟授業など指導の工夫改善に努める。 ・個に応じた学習指導の徹底を図るため、生徒の達成状況を的確に把握し指導と評価の一体化を図るように努める。 ・コンピューターの活用能力の向上に励み、情報社会を主体的に生き抜く能力を育成する。	・新教育課程を見据えた学校設定科目の設定を行い、一人一人の能力・適性を生かし、個性や創造性を伸ばす教育に努めるよう令和4年度からの教育課程の変更を教科で話し合ってもらった。 ・分かりやすい授業を目指し、IT機器を活用、授業改善を行った。BYODを導入するなどの研修も行った。	A	・評価をルーブリックなどの手法を使ったり、各教科で評価基準を考える機運を高めたがすべての教科ではできなかった。新教育課程の評価規準である「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」3つの観点からの評価になっているか検証する必要がある。	・各教科で主体的・対話的で深い学びの実現を研修し、社会に開かれた教育課程を実現できるように行う。
	・県立学校学びのイノベーション推進事業により校内LANが整備されたことに伴い、タブレットPCや単焦点プロジェクタなどのICTを活用した授業やBYODによる授業など、教員の活用能力の向上と授業の中での積極的な活用を推進する。	・コロナ禍の自宅学習においてGoogleClassroomなどの活用を教科や部署で行った。 その他、デジタル教材の開発などDXが進んだ。	A	・情報化社会に主体的に対応できる情報教育を推進し、情報技術や情報を適切に活用する能力及び情報モラルを育成する意識を全職員が持つようにしたい。 ・また、知的財産に対する権利の意識を向上する指導に取り組む必要もある。	・生徒支援部などの情報モラル教育も情報教育の一環として位置づけ今後の対応を学校全体の課題として考えていく。 ・デジタル教科書など活用とすべての教科でタブレットコンピュータの活用を考えてもらい、授業の利用単元を考えてもらう。
生徒支援	・自転車通学生が大部分である現状を踏まえ、交通マナーの向上と交通安全の高揚を図る。	・年間3回の交通安全運動(下校時)を計画したがうち1回は、天候不順の為実施できず ・自転車交通安全指導(1・2年生対象) 今年度、スケアードストレイト自転車交通安全教室を実施 ・通学途上の交通マナー指導(全校生)	B	・近隣および通学途上でのマナーに対する苦情が多い。	・飾磨警察交通課と連携を図り、新入生を対象に引き続き、交通安全教室を行う。
	・生徒指導上のルールの見直しを図る。	・携帯電話・アルバイトのルールを含め、学校生活上の留意事項を整理した。 ・生徒表彰規程を見直した。	A	・変更されたルールの周知徹底を行う。 ・服装規程についても見直しを図る。 ・また、その問題点について議論を続けていく。	・生徒会を中心に生徒の意見を反映させる。
	・インターネットおよびSNSに関するトラブルの減少を図る。	・インターネットおよびSNS被害防止講演会を実施(1年生対象)	B	・スマートフォンを利用した生徒トラブルが発生した。	・飾磨警察交通課等と連携を図り、新入生を対象に引き続き、SNS関連の被害防止教室を行う。

	重点目標	成果	評価	課題	改善策等
保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動全体を通して心身の健康の保持・増進に必要な自律的能力を培い、生涯にわたって主体的に健康な生活を保持するための基礎を培う。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断の事前・事後措置の機会を活用し集団</li> <li>・個別に自らの健康に関心を持つ指導を行った。感染症対策のため検診実施方法を見直し三密を回避する方法で実施した。</li> <li>・保健室の機能を十分にいかしながら、保護者や学校医と連携を密にし、心身の健康問題の早期発見や早期治療、疾病の予防に努めた。</li> <li>・学校全体で感染症予防の教育や偏見差別について考える指導を実施した。また全職員で消毒や環境整備を実施した</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断結果を受けて、生徒自らが健康意識を持ち、健康の保持増進につながる行動がとれる生徒が少ない。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症を予防するため時間や実施方法を見直して実施する必要があったが時間的な余裕がなく、検診終了が12月までかかることになり早期に疾病を見つけることができにくい状況であった。</li> <li>・生徒が多忙で病院受診する時間の確保が難しい。</li> <li>・がん教育の準備が遅れている。</li> <li>・目に見えない感染というものを理解することが難しいため行動変容がおこりにくい。生徒職員ともにその行動の必要性の理解を促すことに苦労した。終わりのない状況に疲れや慣れが生まれて危機意識の低下がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断後の事後指導を個別に丁寧に進める。</li> <li>・健康教室を増やし、生徒が健康に関心を持つ機会を増やす。</li> <li>・学校として生徒の日常生活の中に病院を受診し定期健診や検査、治療を受けるための日を確保する。</li> <li>・がん教育研修会等に参加し実施できるよう準備する。</li> <li>・感染症対策に疲れや慣れが出てくる頃が危険と考える。役割分担見直しと職員の負担軽減を考えていく。タイムリーな情報発信と対策の重要性を継続して伝えていく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や地域社会との連携を図りながら多様性の社会の中で、生徒にその一員としての共生の心を育成し、生命の大切さやボランティア精神の大切さを体得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者・専門機関と連携し個別に支援を必要とする生徒への支援を組織的に行った。</li> <li>・特性のある生徒理解につながる情報提供をほげんだよりで行った。</li> <li>・キャンパスカウンセラーを3人体制にしアサーションやソーシャルスキルトレーニングを実施し生徒の進路実現のサポートを行った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要な生徒の把握と情報共有を円滑に実施する必要がある。</li> <li>・支援が必要な生徒の中学校からの情報提供がない場合があり、対応が遅れが出る場合がある。</li> <li>・支援ファイルの定期的な更新ができていない場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めに支援が必要な生徒の把握、ファイルの作成更新、情報の共有までのスケジュールを作成し確認する。情報が更新されるごとに共有を行えるよう体制を整える。</li> <li>・可能な限り入学時に把握する。入学後把握した場合は必要に応じ保護者・中学校・関係機関と連携し生徒が学校生活で困難な状況にならないよう努める。</li> <li>・キャンパスカウンセリングをさらに生徒に開かれた機会にする。</li> </ul>
進路支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりのキャリア形成と自己実現におけ、組織的・継続的な進路支援体制の充実を図る。また、各学年や関係機関と連携を深め、適切なサポートを計画的に実施する。</li> <li>・主体的な進路選択能力の育成を図るために、様々な体験活動を通じて望ましい職業観や勤労観の育成と進路意識の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3学年との定期的な会議や毎日の打合せを行い連携を図った。また、各学年実施の進路行事では学年進路担当者と連携を図った。</li> <li>・就職面では、卒業生を囲む会・応募前職場見学・ビジネスマナー講座・インターンシップ・職業講話・公務員学習会を実施した。また、生徒・保護者向けの「進路説明会」も実施した。</li> <li>・進学面では、学年独自で動いたものや進学指導部が提案し進めたものもあった。模試に関しては実力診断テストを取り入れ、具体的な学校名や職種に対する適正を生徒・教師とともに共有できるようにした。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響により、試験の日程や内容の変更に伴い、3年生への支援が業務の中心となり、他学年との連携が手薄になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と進学者のやり取りをするにあたり、窓口を明確にし、そのあとどういう形で進めていくのかを各学年と定期的な意見交換会を実施し考える必要がある。</li> </ul>
			B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生から体験活動を計画する必要がある。時間割の関係で学年との打ち合わせの時間が持てなかった。</li> <li>・ホームルームに関しては学年との連携が取れなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学時から三年間を見据えた計画を立てる。また、全員が同じ時間に集まることはできなくても、学年の動き、情報をより把握するためには、放課後等の時間を利用したの連絡会の時間を持つことが望ましい。</li> </ul>
キャリア形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のキャリアを形成するにあたって、校内で連携し幅広い視点に立って生徒の活動が活発に行えるようにする。</li> <li>・それぞれの部所で実施されている活動について、職員全体がその内容や状況がわかるよう公開する。</li> <li>・様々な活動を通じて生徒が身につけた実績を、進路に直結できるよう図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外研修や講演会、ボランティア活動など様々な角度から地域について学ぶ機会を持ち、課題研究につながる素地を育成する活動ができた。</li> <li>・実践した活動についてはホームページなどを通じて紹介し、生徒のキャリア形成の状況を共有することができた。</li> <li>・校内の活動だけでなく郊外での活動を担任がいち早く把握できるよう、活動報告書を記入させファイルを備え付けるシステムを導入した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のキャリアを育成するためには職員間での意識の共有、各部・学年との連携が不可欠である。定期的な委員会の開催や委員を通じての意見交換で連携を図ることが課題である。</li> <li>・各部・学年、各教科が単独で活動していることが多く、生徒に対して実施しているキャリア活動の把握が難しい。</li> <li>・学期ごとに振り返りと活動報告書の記入をさせる予定であったが、活用が進んでいない。担任の協力が必須である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に委員会を開催し、各部学年をはじめとする職員全体でキャリア形成にかかわる意見の交換を実践する。</li> <li>・卒業後を見据えた3年間のキャリア活動における、ねらいや目標を明確にし、周知していく。</li> <li>・生徒のキャリア活動の根幹をにない、各部・学年、各教科に広げていくようにする。</li> <li>・キャリアについて考える学年行事を設け、活動や検定の振り返り、進路について考える機会を設ける。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LHRや講演会などを通じて今日的な人権問題についてふれ、その実態を学んで理解をふかめる。</li> <li>・人権にかかわる問題の解決に向けて自主的に行動できるよう人権意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権LHRを通じて、教室のプロジェクターを使用しコロナウイルスと人権の問題について映像教材を用い考える機会を定期的に持つことができた。</li> <li>・定期的に入権委員会を開き、各部・学年と連携して人権問題への理解に努めることができた(学年をはじめとする先生方の協力が得て実践できた)。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予定していた講演会や職員研修会を開催することができなかった(コロナウイルス禍においても実施することができるシステムの構築)。</li> <li>・人権アンケートの在り方と活かし方。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教室のプロジェクター、情報機器を生かすなど、リモートでの講演会・研修会の持ち方を他の部所と連携して検討する。</li> <li>・今日的な課題に向けてアンケート項目からの見直しを図る。また、結果を全体で共有できるようにする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室に対する希望や意見を図書委員が集約するなど、生徒が自発的に行動できるよう指導し、積極的に図書室を活用できるように取り組む。</li> <li>・Surfaceの導入による図書室の活発な利用を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書当番の仕事を通じて書籍管理や帯出業務など自主的に取り組ませることができた。</li> <li>・定期的に入権委員会を開催し、図書購入の希望集約や選定、『図書だより』の発行など自主的に動くことができた。</li> <li>・入試準備や授業にSurfaceを積極的に利用することができた。</li> <li>・3年課題研究で図書室のノートパソコンを使用し調べ学習やプレゼンテーションの学習をする機会が持てた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書委員については、帯出業務や書籍管理だけではなく、図書室の利用促進に向けた積極的な姿勢が必要である。</li> <li>・書籍の環境整備、書籍の整理、分類が今後も相当に必要である。</li> <li>・図書室において生徒の能動的な調べ学習の機会が足りない。生徒が学習の中で生じた疑問について自ら調べ、考える機会の醸成が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書委員会で図書室の利用促進や『図書だより』紙面構成について考えさせ、改善行動を促す</li> <li>・Surfaceについては、図書室内での印刷を可能にするなど、より便利な使い方ができるよう他の部所と連携して検討する</li> <li>・放課後の生徒開放、入りやすい雰囲気づくり、授業での積極活用を推進する。</li> </ul>

	重点目標	成果	評価	課題	改善策等
システム管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務支援システムの本格的導入に当たり、日々の出欠管理を徹底し、3年生の就職・進学調査書発行業務の研修を行い、保健データとのリンクをなごスムーズな運用の確立を図る。</li> <li>情報セキュリティ実施手順の策定を行う。</li> </ul>	調査書発行業務にともなう仮評定の設定など、試行錯誤しながら運用することができた。定期考査の個票作成も支援システムで行えるようにした。卒業証書台帳や卒業証明書・生徒証の発行も行えるようにした	A	校務支援システムを運用するにあたり、職員全体の意識の向上と研修がさらに必要である。証書の発行など手順を研修する必要がある。USB噴出などのリスクに対する研修も続けていく必要がある。	情報セキュリティに対する研修を毎年設ける。校務支援システムや県のファイルサーバの使用方法など運用規定を設けるなどを実施したい。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>県立学校学びのイノベーション推進事業により校内LANが整備されたことに伴い、タブレットPCや単焦点プロジェクタなど管理を行う。</li> <li>オンラインネットワークサービスである、google Classroomやoffice365のアカウントの管理やサービスの方針研修を行う。</li> <li>BYOD授業の補助などを積極的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いくつかの教科でタブレットと単焦点プロジェクタを用いた授業が展開できた。BYODなどの授業の試みから実施をすることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器の積極的活用が一部の職員になりがちで、活用の利便性と生徒の分かりやすさを今後も広めていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的にICT機器の研修会を行う。個別指導なども行う。</li> </ul>
商業	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門教育の深化を図るとともにスペシャリストを育成するために、個々のニーズや時代の流れに合った商業の教育課程や指導方法を確立する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程の見直し(選択科目の実施内容の変更)</li> <li>課題研究の実施内容・方法の変更</li> <li>特別非常勤講師等の活用</li> <li>受験検定の精選(1年次での日商簿記3級受験により2年次日商簿記検定2級合格者の増加)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究の実施方法を変更したが、探求型の授業に対する理解度が低い。</li> <li>1年生日商簿記3級初回受験時期の検討</li> <li>日商簿記3・2級の合格者およびITパスポート等の国家資格合格者の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次より課題研究に向けた体系的な授業展開の実施</li> <li>資格取得だけでなく、ビジネス事例を用いたグループ学習や発表の機会を増やす。また、ビジネスゲームや各種コンテストへの応募を通じ、知識を活用しアイデアを生み出すことで課題研究につなげる授業展開を行う。</li> <li>来年度より統一検定年3回以外での受験が可能になるため初回検定を12月に変更する。</li> <li>高崎商科大学との連携により日商簿記講座の動画視聴による学びが可能となったため、反転学習や復習学習に活用することで、自宅学習の習慣を付ける。</li> <li>ビジネス情報1級ではなくITパスポート受験へのシフトを行う。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル社会に生きる職業人として、国際的な視野を養うために、国際理解教育に対応した指導方法を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスにより実施せず</li> </ul>	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネット環境を活用したオンライン会議形式を活用し交流を継続する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度も新型コロナウイルスの影響で実施できるかが未定のため、オンラインによる交流方法を早急に検討する必要がある。</li> </ul>
情報科学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータを活用技術の向上と社会に触れる機会の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎年、実施してきた工場見学がコロナ禍の影響で中止となり、実社会の最新技術などに触れる機会を作れなかった。</li> <li>1・2年次生徒へオンラインの講演を受講で、視聴することで、社会に触れる機会を間接的に作れた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度も外部への見学は見通せない状況の中、企業の方などを講師としてお迎えして、実社会に触れる機会を作っていくなど考えていきたい。</li> <li>オンライン配信などを活用して実社会とつながる形での工場見学などを考えていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣の企業や研究機関との連携について考える。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>工業科目(情報技術)の理解と国家資格取得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報技術の基礎から応用技術まで、工業科目中で段階的に展開して実施した。</li> <li>4月と10月の国家資格試験が延期となる中情報セキュリティマネジメント試験に3名合格した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報技術やプログラミング技術を活用したIOTなど生徒が興味関心が持てる授業となるように工夫を凝らす必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自分で目標達成できる実習教材など考える。</li> </ul>

	重点目標	成果	評価	課題	改善策等
1 学 年	・「安心」・「安全」な環境の中で、「充実感」・「達成感」を味わえる集団づくり	・お互いの個性を認め合う生徒が増え、生活面はもとより学習面でも切磋琢磨する様子がうかがえた。	B	・様々な環境や集団を通じて、他者に働きかける力やコミュニケーションスキルを向上させる。	・様々な体験活動を通じて、自分の長所や短所を気づかせ、自ら改善しようとする態度を育成する。
	・「生きる力」の育成と「社会で通用する」生徒の育成	・挨拶をはじめとする基本的な生活習慣が確立し、集団生活を通して自分の役割を果たす様子がうかがえた。	B	・何事にも見通しをもって計画を立て、評価・改善を加える課題対応能力を向上させる。	・学ぶ・働くことへの意義や役割を理解させ、将来を設計する力を育成する。
2 学 年	・自ら学び自ら考える態度を育成し、主体的な進路選択ができる態度を養う。	・計画的に学習に取り組み、学力の向上と同時に各種コンテストの応募や資格取得において好成績を残した。	B	・コロナ禍で予定していた活動ができず、思うような結果を出せなかった生徒に対する適切なアドバイスが不十分であった。	・進路選択におけた多様な取り組み(活動)を知るために外部の研修にも積極的に参加する。
	・自己理解を深めると同時に、周囲の人々とのコミュニケーションを大切に、お互いに向上しあえる集団を作る。	・講演会やボランティア体験などを通し、自分の可能性に気づいたり、相手の立場を理解することで、相手を尊重する言動をとる姿が見られた。	B	・性格や家庭環境により個人差が見られるので個人の体験を学年全体のものとして共有できるようにする。	・コンテストやボランティアなど外部での活躍を共有できるよう、ホームルームや学年集会だけの連絡でなく、ICTを使った活動に取り組む。
3 学 年	・自ら学び考え、社会に通用する人材育成	・積極的に挨拶をする、時間を守る、遅刻をしない、等の社会人として基本的なマナーの指導を行った。 ・進路のLHRを通じて、社会問題について調べ、グループ内で各自が発表し、問題解決能力を養う活動を行った。 ・こども食堂のボランティア活動を行ったり、夏季休業中にひめじ創生SDGsカフェに参加したりするなど、積極的に学校外の人と関わり学ぼうとした。 ・上記の学習活動を通じて、いわゆる「ひきだし」を増やすことで面接や小論文試験への対応力を身に付けていった。	B	・遅刻を繰り返す生徒がいた。特に、進路決定後は気の緩みが目立つ生徒がいた。 ・自ら課題を見つけ、その解決に向けて何をすべきか、まで考え実行できる生徒が少なかった。	・家庭とも連携し、継続した指導が必要である。 ・実態に応じて、学習やLHR計画を見直し、効果的な指導方法を探る必要がある。
	・主体的な進路実現とそれに対する指導助言	・コロナによる休校期間中は、進路実現その他への不安を軽減するため、Gsuiteを利用して可能な限り個別に連絡を取り合った。 ・Gsuiteにて、保護者の希望をも把握することで、スムーズな進路実現を心がけた。 ・進学・就職ガイダンスを行って、細かい説明をするとともに、個人面談や三者面談を繰り返し、生徒の希望や適性に合った進路指導を目指した。 ・通常登校が再開されて後は、それまでの遅れを取り戻すべく、面接、履歴書、志望理由書、小論文、ディスカッションと文字通り教師生徒が一丸となって取り組んだ。その結果、ほぼ満足のいく結果を得ることができたと考えている。	A	・少数の生徒であるが、自分の意志がはっきり確定しておらず、保護者の意見に左右される場合もあり、進路決定に時間がかかった。	・保護者、生徒、担任との連絡を密にとり、納得いくまで丁寧に話し合うことが最善の策である。